



(公社)静岡県獣医師会長賞

## 命と人間の責任

一年 高橋麻実

私は、ヒメという名前の黒猫を飼っています。ヒメは今、四歳の健康な成猫です。しかし、出会ったときの姿はとても痛々しいものでした。体はやせ細り、けがもしていて、しっぽは短くなっていました。その姿を見たとき、私は胸がしめつけられるような気持ちになりました。

小学三年生の秋のことです。学校から帰ると、庭の木陰に黒い子猫が小さくうずくまっていました。こちらをじっと見つめ警戒している姿を見て、私は「この子を飼いたい」と思いました。しかし、猫を飼うということは命に責任を持つということです。

私は家族と何度も相談しました。食費や病院代のこと、そしてこれから十年以上共に暮らすということ。その上で、私たちはその子を迎えることを決めました。それがヒメとの出会いです。

それから私は「野良猫について調べてみました。野良猫は雑食性が高く、鳥や昆虫、人間の食べ残しなど、さまざまなもの食べて生きています。しかし、中には絶滅危惧種のアミノクロウサギやヤンバルクイナを食べてしまうこともあると知り、驚きました。

さらに海外の研究では、放し飼いの猫が絶滅のおそれがある動物の二割にあたる三百四十七種を捕食していることが分かっています。私が普段かわいいと思っている猫が、自然界では大きな影響を与えていることを知り、とても複雑な気持ちになりました。

しかし、これは、本当に猫だけが悪いのでしょうか。猫は生きるために食べているだけです。もともと野生動物を絶滅の危機に追いやったのは、森林伐採や外来種の持ち込みをした人間の活動です。人間が作り出した環境の中で生きざるを得ない猫に、すべての責任を押しつけることは間違っていると思いました。

この問題を解決するためには、私たち人間が責任を持って行動することが必要です。野良猫を保護すること、そして飼うときは室内飼いを徹底すること。そうすれば、野生動物を守ることもつながり、同時に不幸な猫を減らすことができます。また、飼い主が避妊や去勢をきちんを行えば、望まない命が生まれることも防げます。これは、私たちができる小さな一歩ですが、とても大切なことだと思います。

ヒメ達と暮らす中で、私は猫からたくさん癒しや元気をもらっています。

猫を飼うことは、責任も大きいけれど、それ以上に大切なものを与えてくれると感じます。

ヒメとの出会いをきっかけに、私は「命」と「人間の責任」について深く考えるようになりました。これからもヒメを大切に育てながら、一匹でも多くの猫が幸せに生きられる社会になってほしいと強く願っています。